

平成 18 年度 受託調査研究

「東北歴史街道」に関する調査・研究第二期調査(民間企業)

東北地域内外を結ぶ主な歴史街道を中心とする東北地域内の歴史的資源の歴史的・今日的意義を探り、モデルルートを設定した平成17年度の第一期調査に続き、第二期調査では、出羽三山周辺地域(出羽三山参詣の道)を取り上げ、体験教育旅行の誘致・展開のためのコンセプト、体験テーマ案、プログラム案をまとめた。

本調査は、平成 17 年度の第一期調査に引き続き、(財)東北開発研究センターに委託し実施したものである。

■ 調査研究の概要

1. 第一期調査研究の概要

本調査では、主に近世の江戸時代に整備された東北域内外を結ぶ主要街道や脇街道、海運、舟運等に焦点を当て、東北の発展に果たした歴史のおよび今日的意義を探るとともに、これらの街道を基盤とした人や物の交流に関わる歴史・文化資源の洗い出し、それにまつわるエピソードの検証を行い、東北域内外への情報発信のための素材発掘(モデルルート提示)を行った。

具体的には、人々の社会生活やライフスタイルといった現代を取り巻く環境の変化を概観し、“歩く”というキーワードを導き出すとともに、歴史街道を構成する諸要素を踏まえ、東北における広域観光の推進や交流人口の拡大に向けた切り口、素材として“峠”に焦点を当てた。

その上で、武将や文人墨客等の歴史上の人物、参勤交代や参詣(信仰)、伝説・伝承等の史実、風景・景観などの歴史・文化資源や自然資源に加え、歴史街道の物資輸送ルートとしての重要度、これら資源の一般的認知度や面的広がり、地域的バランスなどについて多角的に検討し、抽出した複数の候補の中からすぐれた歴史・文化資源を有する観光・モデルルートとして「出羽三山参詣の道～六十里越街道、舟形街道および最上川舟運」を取り上げ、東北域内外への情報発信のための今後の課題と展開方向について整理した。

2. 第二期調査研究の概要

本調査では、第一期調査で示した今後の課題と展開方向および具体的方策等を踏まえ、出羽三山周辺地域（出羽三山参詣の道）をモデル地域に設定し、歴史街道をはじめとする歴史・文化資源を生かした地域の魅力を発信する手段として、「体験学習型」や「テーマ型」の学習観光を取り上げて調査した。

具体的には、小中高校生を主体とする体験教育旅行に焦点を当て、地域の歴史・文化資源を生かした体験教育旅行の誘致に取り組んでいる域内外の事例や地域の魅力を効果的に発信している事例の考察を踏まえ、出羽三山周辺地域をフィールドとした体験教育旅行の誘致・展開に向け、コンセプト、体験テーマ案、プログラム案そして今後の課題を整理した。

■ 第二期調査研究のまとめ

調査・研究にあたっては、学識者及び有識者からなる研究会を設置して検討を進めた。

【研究会の構成】

委員長 宮原 育子 宮城大学 事業構想学部 助教授
委員 小椋 唯一 東北広域教育旅行誘致委員会 幹事長(国土交通省観光カリスマ)
伊達 宗弘 宮城県図書館長
吉田 総耕 株式会社東北レジャー情報 代表取締役

第一章 調査の概要

第二章 体験教育旅行からみた体験学習の実態

本章では、学校など体験教育旅行を実施する側の動向を把握するため、関係機関が公表しているアンケート調査の結果等をもとに、修学旅行とその中のプログラムとして行われる体験学習の実態、および社会科見学の一環等として実施されている移動教室の実態について概観した。

併せて、本調査のモデル地域として取り上げた出羽三山周辺地域を有する、山形県における体験教育旅行の受入状況について概観した。

● 体験学習についてのまとめ

体験学習は、歴史・文化体験（歴史文化遺産，創作），社会体験（ボランティア，平和学習，農業体験），自然・スポーツ体験など多岐にわたり，学校は教育的価値の高い活動と評価している。また，出発前にテーマを設定し，事前学習を行った上で現地に向かい，そこで見学・学習した体験やデータを旅行後に発表するという流れが基本となっている。

体験学習の実施にあたっては，体験活動での満足感や成就感が生涯にわたる楽しい思い出になるばかりでなく，これからの学ぶ意欲や生き方の向上につながるように，その意義やねらいを学習指導計画の中にしっかりと位置づける必要がある。また，生徒の自主性が重視されることはもちろんのこと，「相手とかかわる」活動であることを踏まえ，体験活動中の礼儀・作法，望ましい人間関係，班別活動の協力体制など，十分に指導をしてから臨むことが大切である。

● 山形県における体験教育旅行についてのまとめ

山形を訪れる県外の学校は，主に仙台圏の中学校（2年生）で，旅行形態は2泊3日の野外学習が多い。この場合，山寺（立石寺）または蔵王を見学し，農業体験や農家・民家宿泊をするパターンが主流となっている。そのほか，羽黒山の表参道・石段

を登り、出羽三山神社を見学し、山伏修行体験を行ったり、最上川舟下りをしたりする学校もみられる。

山形県で実施する体験学習のプログラムとして、最もニーズが高いのは農業体験である。これは、近年、農業体験や農家・民家宿泊を受け入れる地域が増えていることが背景にある。また、それとの組み合わせで伝統芸能の体験についてのニーズも増えている。

一方、最近では、産業観光やエコツーリズムが注目されていることもあり、県内に立地している食品トレーのリサイクル工場等の見学も、少しずつ関心が高まってきている。

第三章 歴史・文化資源を生かした学習観光および地域の魅力発信

本章では、次の 2 つの要素に該当する先進事例について取り上げ、ヒアリング調査の結果 から各々の事例にみる特徴について考察した。

● 学習観光の中でも、歴史・文化資源を生かした体験プログラムを取り入れた体験教育旅行を誘致している事例

- ①新潟県奥阿賀地域（阿賀町）、 ②栃木県日光市、 ③長野県白馬村・小谷村
- ④長野県南信州地域（飯田市および周辺町村）、 ⑤和歌山県（全域）

● 今日まで継承・保存されてきた歴史・文化資源を資産・遺産として再評価し、地域の魅力として発信していこうとしている事例

- ①北海道遺産構想、 ②伊勢～五十鈴塾、 ザ伊勢講と伊勢河崎のまちづくり

【体験教育旅行の誘致事例にみる特徴】

● 事業コンセプト

都会での日常生活や学校の教室では得る（知る）ことのできない「ほんものの体験」を通して、地域のすばらしさに触れ、感動や満足感、達成感などを味わってもらうこと、すなわち、子どもたちに何らかの“気づき”の機会を与えることである。

● 宿泊形態

主要な観光地ではなかった奥阿賀地域や南信州地域では、学校側のニーズが高い農家・民家 宿泊が体験教育旅行の大きな柱。一方、全国的にも名高い成熟した観光地である日光市や白馬村・小谷村の場合は、旅館・ホテルへの宿泊が大半である。

● 子どもだけでなく地域にも変化をもたらす～体験教育旅行の“内なる効果”

子どもに対する教育効果に加えて、地域の人々とその地域にもたらす変化、いわゆる“内なる効果”がみられる。

〈各事例にみる教育効果〉

- 食のありがたさや自然環境の大切さ、地域の歴史・文化を学ぶ
- 複数の子どもと一緒に取り組むことで協力し合うことの大切さや連帯感を学ぶ
- 安全と危険の境界を判断する能力、分別を身に付ける
- 地域の人々とのふれあいを通して人との接し方を学ぶ

〈各事例にみる内なる効果〉

- 地元の人々に対し、地域や仕事に対する誇り、自信、生きがい（楽しみ）をもたらす
- 高齢者に前向きな気持ちが芽生え、自らアイデアを提案・工夫したりするようになる
- 地域経済の活性化に寄与する
- 農産物の直販等による生産者と消費者との信頼関係を構築する

● 体験プログラムとしての歴史・文化資源、歴史街道

修学旅行の行程に余裕がなく、時間が限られている現状では、トレッキング＝街道歩きに対する学校側の認知度、ニーズはまだ低く、教育方針や修学旅行の目的に合致した学校にしか利用されていない。

しかし、受入側としては、歴史街道をはじめとする歴史・文化資源を、体験プログラムの重要な構成要素と位置づけ、活用していきたいと考えており、子どもたちの興味・関心を引くために様々な工夫がなされている。

● 共通する特徴

体験教育旅行誘致の事例および地域の魅力発信事例それぞれに共通する特徴、地域の魅力を表現し、発信する「語り部」の重要性である。これは裏を返せば、後継者の育成、質の高い人材の養成という点で、共通する課題でもある。

各々の事例にみるように、「語り部」はガイドやインストラクター、インタープリターに限定されるものではない。農家・民家宿泊で子どもたちを受け入れ、地域におけるありのままの生活（暮らし）を見せ、語り聞かせる人たち、あるいは地域の歴史の掘り起こしに重要な役割を果たす研究者や学生も「語り部」となりうる。

このような「語り部」としての条件を備えた多様な演者が参画し、自分の声で語ることが、事業・まちづくりの基盤や継続性を支え、地域の魅力に厚みを加えるための原動力となる。

第四章 出羽三山周辺地域の魅力発信と学習観光の展開

本章では、出羽三山周辺地域における学習観光の土台となるポテンシャル（同地域にまつわる史実・伝承等や、体験教育旅行等の取り組みの現状）とコンセプト（体験教育旅行の誘致・展開の動機付け）を押さえ、これらをもとに体験テーマ案およびプログラム案を提示した。

その上で、先進事例を参考に、同地域の魅力発信も含め、今後の展開に向けた課題について整理した。

1. 出羽三山周辺地域における学習観光の対象・手段

学習観光で大きなウェイトを占める小中学校・高校を対象とした、体験教育旅行に焦点を当てることとした。なお、修学旅行や林間学校、移動教室等の学校行事、あるいは民間の様々な組織・団体が行う合宿や野外体験活動も広義の体験教育旅行と位置づける。

2. 出羽三山周辺地域における学習観光のポテンシャル

出羽三山、六十里越街道、最上川およびその周辺地域にまつわる史実や伝承等に加えて、その他の地域にみられる出羽三山と関連した史実・伝承等を掘り下げて紹介した。

これは学習観光の展開に向けて、出羽三山周辺地域が持つ高いポテンシャルを裏付けることとなり、またコンセプトおよび体験テーマ案やプログラム案の骨格にもなる。

(1) 出羽三山にまつわる史実・伝承等

- ◆出羽三山開山の由来
：蜂子皇子（崇峻天皇の第三皇子）、弘法大師・空海など諸説あり
- ◆山岳信仰と山村文化、習俗
：マタギなど自然と共生した文化、自然崇拜
- ◆修験の文化
：出羽三山修験と深く関係ある神楽・番楽、出羽三山信仰に関連する主な供養塚、石碑・石塔等が東北各地に広く分布し、今日まで伝承・現存
- ◆文芸家が足を運び、あるいは作品の題材にした地
：松尾芭蕉、菅江真澄、齋藤茂吉、森敦、岡本太郎、近藤侃一、藤沢周平など

(2) 六十里越街道およびその沿道地域にまつわる史実・伝承等

- ◆食にまつわるもの
：出羽三山修験者の精進料理として発達した西川町の郷土料理の1つである山菜料理など
- ◆伝統芸能や伝承にまつわるもの
：「本道寺田植踊」岩根沢神楽、志津神楽、田麦俣三山神楽など
- ◆弘法大師にまつわるもの
：六十里越街道沿の護摩壇石、ねじれ杉、弘法茶屋跡と供養塔、田麦俣付近の柳清水など
- ◆その他
：地域の生業にかかわるもの、人の往来・街道整備・武将や戦にまつわるもの

(3) 最上川およびその流域地域にまつわる史実・伝承等

- ◆義経にまつわるもの
：最上川は源義経、弁慶一行が遡上した道であり、その流域には義経や弁慶にまつわる様々な伝承や名勝あり
- ◆出羽三山修験および参詣にまつわるもの
：順徳天皇潜幸伝説（尾花沢市・鎌倉時代）など
- ◆鮭の大助
：禁忌に属する伝承であるが、その背景には人々の自然に対する畏敬と感謝の念あり

(4) 出羽三山周辺地域にまつわるその他の史実・伝承等

- ◆物の往来にまつわるもの
：最上川、六十里越街道は、出羽三山参詣の道であるとともに、物資輸送に欠かすことのできない水陸の大動脈
- ◆技術や知恵、文化の伝播・移入にまつわるもの
：雛人形に代表される京・上方文化は、西廻り航路の帰荷とともに山形へ移入した。また、庄内地方には丸餅やイワシの煮干しを用いた出汁など、今でも京の食文化の影響が残る

(5) 出羽三山周辺地域にまつわるその他の史実・伝承等

- ◆東北各地（出羽三山周辺地域を除く）
- ◆関東各地

(6) 出羽三山周辺地域における体験教育旅行等の取り組みの現状

- ◆西川町の「月山かもしか学園」の取り組み
- ◆鶴岡市羽黒町のグリーンツーリズムと山伏修行体験の取り組み
- ◆六十里越街道および月山登拝道にかかわる取り組み

3. 出羽三山周辺地域における学習観光のコンセプト

コンセプトの明確化は、体験教育旅行を誘致・展開する上でとても重要な要素である。

本節では、全国的に体験教育旅行の誘致に取り組む地域が増えている中で、出羽三山周辺地域の多面的な特徴、個性、魅力を伝え、他地域との差別化を図った。

(1) コンセプト1「感ずる宗教」～羽三山独特の精神風土を体感する

日本古来の自然崇拜・祖霊崇拜，山岳信仰，さらにはそれを基調とする修験道の生活世界が浸透した，出羽三山独特の精神風土を体感すること。

(2) コンセプト2「精神修行・修養」～人生の山，壁を越えるための糸口を見つける

目の前に立ちはだかる困難を克服する「意志・意欲」「忍耐力」等を育む機会と捉えられる。ひいては人生に誇りや生きがいを感じ，生きるための意志・意欲をかき立てる源にもなる。

(3) コンセプト3「体験！歴史・地理学習」～文化の交流・伝播・創造

古代から連綿と受け継がれてきた自然崇拜・祖霊崇拜，山岳信仰および修験道にもとづく思想，精神性の基盤となる，出羽三山，六十里越街道，最上川などを媒介装置に，出羽三山周辺地域で展開された文化の交流・伝播・創造を，「歴史・地理学習として体験する」こと。

(4) 包括コンセプト～人間学習

上記，出羽三山周辺地域をフィールドとした学習観光の土台となる3つのコンセプトを示したが，これらを含むコンセプトが「人間学習」といえる。

出羽三山周辺地域において学習観光を展開する意義を考えるならば，体験教育旅行により地域の人々が現代の子どもに欠けているものを教え諭し，あるいは子どもたちが自ら悟り，次世代を担う健全な子どもが育つことであり，その機会・手段として体験プログラムがある。

そこで，地域の魅力と包括コンセプトとしての「人間学習」を結びつけるキーワードを，出羽三山周辺地域に則して挙げるならば，以下の3つが考えられる。

①「感応道交（かんのどうこう）」

「仏の働きかけと，それを感じ取る人の心とが通じ，相交わること」という意味の仏教用語。日常生活におけるコミュニケーションや人間関係の希薄化が進む現代において，子供たちが都会から離れて，自然，先生，親子あるいは地域の人々と対話する機会を持つことの大切さを知る。

②「新鮮な衝撃」

「人間学習」や「生きる力」を育む取り組みを通して、自ら課題を見つけ、学び、考え、問題を解決する能力を身に付けるには、そのきっかけとして親や学校の先生をはじめとする大人が、様々な体験の機会を作り、子どもたちに対して「新鮮な衝撃」を常に与えられるよう努めること。

③「心の原風景」

日本人の心の中に潜在的に備わっている風景で日本人が人生の山や壁にぶち当たったとき、あるいは悩みや不安を抱えたときに、拠り所、支えとなるものである。出羽三山にみる独特の精神風土は「心の原風景」と相通じ、人間形成の土台をなすものと考えられる。

4. 体験テーマ案およびプログラム案

前節までにみてきたコンセプトと出羽三山周辺地域にみる史実・伝承等を踏まえ、想定される学習観光の体験テーマ案およびプログラム案について例示した。

(1) 体験テーマ案

◆テーマ1 出羽三山を開いた人物とその伝承・由来を学ぶ

出羽三山の開山について、蜂子皇子や弘法大師の人物像、伝承・由来を事前に学んだ上で出羽三山を訪れ、街道歩きやその他体験を通してガイド・インストラクターの案内に耳を傾け、その意味を知る。

◆テーマ2 出羽三山修験と山伏の世界を学ぶ

山伏（山岳修験および里修験）の生活、行動、役割について事前に学んだ上で出羽三山を訪れ、街道歩きや修行、精進料理などを体験するとともに、山伏による講話に耳を傾け、修験の世界を知る。

◆テーマ3 出羽三山の石塔・石碑が建てられた背景・経緯を学ぶ

東北・関東・北陸に点在する石塔・石碑などが建てられた背景・経緯を事前に学んだ上で出羽三山を訪れ、街道歩きやその他体験を通してガイド・インストラクターの案内に耳を傾け、その意味を知る。

◆テーマ4 出羽三山にまつわる文化の伝播を学ぶ

文化の伝播（和紙づくりや豆腐づくり、あるいは伝統芸能・行事）について、事前学習や現地での体験を通し、もたらした人の人物像、発祥地と受容地における製法・作法の共通点や相違点などを学ぶ。

◆テーマ5 街道整備の技術的背景や変遷を学ぶ

街道に石畳を敷いた理由、用いられた石の種類および敷き方、堀割の道にした理由および堀り方、あるいは街道のコース設定など、街道整備の技術的背景や変遷を事前学習や現地での体験を通して学ぶ。

◆テーマ6 出羽三山周辺地域の自然環境と生活を学ぶ

事前学習を通して東北をはじめとする東日本と西日本の植生や生態系の違いを理解し、出羽三山周辺地域の基盤となる自然環境（広葉樹林、高山植物など）や文化（マタギ・鷹匠の生活）などを現地で学ぶ。

◆テーマ7 出羽三山ゆかりの文芸家とその作品の背景を学ぶ

出羽三山、あるいはその周辺地域を題材にして作品を残した文芸家について、事前学習や現地での体験からその人物像や作品内容を理解し、彼らが出羽三山とどう関わり、どのように捉えていたかなどを学ぶ。

(2) 体験プログラム案

◆体験プログラム1～ 出羽三山周辺地域の精神風土を体感する

- ◎ 山伏の講話と修行およびその流れを汲む伝統行事
- ◎ 神社仏閣での御祓い、祈祷
- ◎ 寺社・宿坊での精進料理 など

◆体験プログラム2～ 出羽三山参詣の道を踏破する

- ◎ 六十里越街道トレッキング（全行程 40km 弱、20 時間程度）
- ◎ 旧月山登拝道ウォーク：羽黒山頂⇄荒澤寺（約 2.2km、40 分程度）
- ◎ 街道整備・石畳発掘作業 など

◆体験プログラム3～ 出羽三山にまつわる地域の自然や生活・文化を体験する

- ◎ ブナ林や高山植物、雪山などの自然観察
- ◎ 山菜採り&山菜料理づくり、ニガリ採取&豆腐づくり
- ◎ 和紙づくり など

◆体験プログラム4～出羽三山ゆかりの文芸家の足跡をたどる

- ☆ 松尾芭蕉『おくのほそ道』 ☆ 十返舎一九「羽州羽黒参詣記」☆ 森敦『月山』
- ☆ 菅江真澄『あきたのかりね』 ☆ 齋藤茂吉が歌を詠んだ地 ☆ 岡本太郎「修験の夜」
- ☆ 近藤侃一『出羽三山への道』 ☆ 真壁仁「六十里越街道」 ☆ 藤沢周平『春秋山伏記』
- ☆ 題材となった街道や川沿いの風景、史跡を見ながらの歌詠み、スケッチ、撮影

◆体験プログラム5～オプション（その他出羽三山周辺地域で実施されている主なもの）

- ◎ 田植え、芋掘りなどの農作業体験、農村生活体験
- ◎ ハム・ソーセージづくり…月山ポレポレファーム（西川町）

5. 今後の課題

最後に、上記のコンセプト、体験プログラム案およびそのストーリー案をもとに、出羽三山周辺地域で学習観光を具体的に展開していく上で重要と思われる点を、第三章で取り上げた先進事例を参考に今後の課題として提示する。

(1) 語り部や体験インストラクターの養成・充実

参加者に興味・関心を抱かせ、動機付けを与える「語り部」、すなわち多様な演者は、地域の魅力を発信し、厚みを加える“表現者”として欠かすことのできないものであり、その担い手であるガイドやインストラクター、インタープリター等の養成・充実は重要な課題である。

(2) 学校等に対するプロモーション、タイアップ

出羽三山周辺地域をフィールドとした学習観光のコンセプト、体験プログラム案お

よびテーマ案と、学校や民間の組織・団体が掲げる教育方針・目標、あるいは活動方針・目標と照らし合わせながら、訴求相手や地域を想定し、効果的なプロモーションやタイアップが大切である。

(3) 地域の歴史・文化のさらなる掘り起こし

第一期調査での熊野古道や四国遍路の事例のとおり、地域学（地元学）の展開が魅力発信に重要である。また、出羽三山や信仰と関係の深い歴史・文化資源が東北のみならず関東各地に点在しており、他地域との広域的交流を図ることで、より魅力を高めていくことも考えられる。

(4) 事前・事後学習に活用できる教材，教本の作成・配布およびデジタルコンテンツ化

子どもたちが、出羽三山周辺地域にあるほんものの生きた歴史・文化を学び、このような学校での取り組みに活用してもらうためには、事前・事後学習に活用できる教材，教本を作成して学校等に配布する，映像等のデジタルコンテンツにして提供していくことも大切である。

(5) 受入施設の機運，共通認識の醸成，ノウハウ確立および質の確保

地域一丸となって学習観光に取り組んでいこうという，受入側の機運，共通認識を醸成する。その上で，体験教育旅行誘致の受け皿，窓口となる推進組織の設置を視野に，関係機関がノウハウや課題に関する情報の共有化を図るとともに連携・協力体制を構築することが大切である。

以 上